

令和6年2月6日

国立市議会議長 高柳 貴美代様

国立の都市計画をイコモスの文化遺産に登録を に関する陳情

陳情の趣旨 知見によれば国立は後藤新平による設計監修のバロック都市である。国立の駅前ロータリー、メインの三車線大通り、放射状通りを特徴とした設計は満洲の新京や奉天とほぼ同じ。40間×80間の区画は台北計画と同じ。後藤が都市計画に開眼したのは後藤がドイツに留学する前、明治17年頃に、外国人の都市計画家達によるロータリーを中心としたバロック的な東京の都市計画の提案を見たため、台湾総督府民政局長の時、台北でその計画を実現し、南満州鉄道総裁の時は独自の設計で新京や奉天の都市を作った。堤康次郎の伝記によれば後藤が東京市長時代、議会で東京の都市再開発を提案する一方、後藤の影響で都市開発業を始めた堤に東京における学園都市構想の夢を話した。その直後の関東大震災で復興院の総裁となり多忙を極めながらも学園都市を作ろうとした。堤は用地として国立の土地を買収し後藤と相談して一橋大学を誘致し、後藤は堤の部下の中島部長に都市計画の最終案を了解した。当時、新京は世界的に見ても最新の都市だった。後藤は自分の理想都市を満洲で実現し、ほぼ同時に国立で小規模ながら学園都市の夢を実現したことになる。国立の都市計画は歴史的にヨーロッパのバロック都市に端を発した世界に誇る宝である。

陳情事項 国立の歴史は単に関東大震災を機に、被災した一橋大学の転居先として作られた町ではない。国立が作られた歴史についての研究を踏まえイコモスに文化遺産登録申請を目指してほしい。